

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800436		
法人名	社会福祉法人恵生会		
事業所名	グループホーム桃山台		
所在地	神戸市垂水区桃山台5丁目1144番地 (電話) 078-751-0006		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価確定日	平成19年10月4日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 3月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算6.0 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有(156,000 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.57 歳	最低	59 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余医院
---------	-----

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR垂水駅より車で10分程度、住宅街を山手に上がった静かな住宅街の一角にあるグループホームで、緑豊かな自然の中にある。同敷地内には特別養護老人ホーム、ショートステイサービス、デイサービス、地域包括支援センターが併設されている。このホームは、1ユニット8人で運営され、一つの家族の集まりのような穏やかな雰囲気がある。その中で、利用者の高齢化に伴う、終末ケアの問題にも取り組んでいる。今まで最後までケアをした経験もあり、必要に応じて家族との話し合いの場を持っている。グループホームの理念に基づき、毎年、年度末に次年度の方針を職員全体が決めることにより、目標を職員が理解して支援している。今後も、介護計画の作成・見直しのあり方等を検討し、また目標を高くして、サービスの質の向上に取り組むことが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の評価の中で「地域とのつきあい」について要改善項目であったが、今回運営推進会議を開くことにより、地域との交流が少しではあるができています。自治会には法人として入会し、防犯についても自治会と共に意見を出しあい、学校の行事等も席を作って頂き、参加している。まだできていないこともあるが、前向きに取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	職員、管理者とも自己評価について、職員会議で話し合い、またそれぞれに自己評価した。昨年度の評価を確認して意見を出し合い、できる事から実行していた。職員の受け止め方にもそれぞれの基準に差があることもお互いに理解し、利用者を中心に考えようとしている。また、運営推進会議にも評価を報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議を今までに4回開催している。出席者は地域代表2名、利用者1名、地域包括支援センター1名、事業所3名である。議事の内容はそれぞれの立場から提案があり、家族からの提案も多く出されており、その都度、提案議題の多少に係わらず謙虚に受け止めて、対応している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	以前より苦情に対する意見箱を設けているが、今まで一度も投書は入らなかった。無いことが良いとは思っておらず、本音が言えないのではないかと管理者、職員が感じている。苦情、本音を言って頂ける対策として、家族との対話を大切に、特に来てくださる家族とのコミュニケーションを心掛けている。相談などにも時間をかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	近隣の方より、利用者が外出していることを知らせていただき、迎えに行ったり、散歩のときに挨拶をしたり、防犯で話し合っ警察の巡回をお願いする等、地域との付き合いを大切にしている。月1回のふれあい街づくりには、職員も同行して利用者に参加を促している。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はこれまでの「ゆったり、楽しく、自由に、その人らしく」を掲げており、地域密着型サービスとしてどのように捉え、表現したら良いか職員間でも話し合っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具体化に職員が取り組み、4つの理念をそれぞれに「桃ノート」に書き留め、職員間で理解をかさねている。「ゆったり」の理念一つにも考え方、実践の方法を書き込んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事、学校の行事、月1回のふれあい街づくり(サロン)に参加し、また地域のボランティアの訪問等交流を深めている。日常的には買い物や散歩の時等、あいさつをおこなっている。自治会と共に防犯について話し合いを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を見直し、改善を進めている。職員、パートを含め管理職共々、職員会議を開き検討し、自己評価を書くことにより、受け止め方にもそれぞれの基準に差があることもお互いに理解し、利用者を中心に考えようとしている。運営推進会議にも評価結果を報告している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今まで4回会議を開催している。家族の意見を多く聞き、その場で対応する事もあるが次回に報告を必ず行い、実践の報告もしている。毎回それぞれの立場から議題が出され活発に運営され、その都度、提案議題の多少に係わらず謙虚に受け止めている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者への報告等を行っているが、運営推進会議への出席もなく、現状では連携してサービスの向上に取り組む状況にはない。</p>		<p>市との連携が進むように、例えば担当者にホームを見学してもらい、ホームの運営について相談する、便りを届ける等はたつきかけ、少しずつでも具体的な取り組みへつなげることが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人の機関とは別にホーム独自の便りを作り月1回届けている。家族が来られた時に、健康状態、金銭関係の内容、日常の生活を具体的に伝えている。あまり来られない家族にも近況報告をそえて送っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」を設置しているが、今までは一度も投書はない。運営推進会議において参加した家族より意見が出された場合は、その都度対応したり、後日職員間で話し合い、家族の意見を反映するようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は最小限に抑えている。新人の採用時研修は三ヶ月あり、退職者が出る時は引継ぎを確実にできる体制を整えている。職員の退職は比較的少なく、緊急時の職員の確保は法人内の施設より応援を依頼している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や役割に応じて必要な研修を受講するように勧め、費用等はホームが負担している。一度に一人程度が限度であるが、研修の案内をいつも掲示している。事業所内の研修も一ヶ月に一度実施し、参加を促している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターの地域連絡会に参加して、近隣のグループホームとの交流を行い、お互いに見学をしている。できているところ、改善しなければいけないところが見えて、良い勉強の場と捉えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前に面接を行い、話を聞き信頼関係を築くようにしている。また見学に来ていただき利用者、家族の不安など相談を受け、サービス内容について説明をしている。時間を掛けて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を大切にして、その中からその人の生き方を学び、昔のことを教えて頂く気持ちで接している。さり気なく利用者に笑顔で話しかけて、相槌を打ち同じ内容の話でもよく聞いて返事をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションが取りにくい利用者の為に、職員が全員で24時間シートをつけることにした。労力はかかったが全職員が理解でき、利用者を中心としたケアに繋げている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、職員会議、担当者会議、カンファレンスで出た意見を参考に作成している。しかし、計画の期間が1年間となっており、利用者や家族の思いが具体的に反映されている状況とはいえない。</p>		<p>家族、利用者の思いを具体的に介護計画に記入し、計画の設定期間を再検討して、ケアに関わりのある方全員が、わかりやすい計画表となるよう取り組みが期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員間の連携はノート等で利用者の変化など記録され、変化に応じたケアの対応はなされているが、具体的に介護計画の見直しはできていない。</p>		<p>介護計画は利用者に変化が見られない時でも月1回程度確認し、計画通りにケアを継続する可否の検討が望まれる。確認・検討した内容は家族との話し合いの材料となるのではないかと。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>外出時の送迎、受診時の送迎、外泊の支援等自主的にサービスを行い、利用者と家族に安心感をもってもらえるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで掛かっていた医師の診察を受けられるように、送迎をしたり、家族が同行できないときは、職員と一緒にいき診察を受けている。家族との情報交換等連携も良くとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の高齢化にともない、家族との話し合いを必要に応じて行っている。可能なかぎり、最期の看取りもさせて頂きたいと管理職、職員共に考えている。今までに一度ホームで看取りを経験しており、体制も考えている。		
い					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	人権についての研修を法人全体で行い、それに参加している。どのような言葉、態度、声掛け、場面での対応等がプライバシーを損ねているか学び、資質の向上に努めている。たとえばトイレのカーテンにもその実践がうかがえ、また、個人のファイル等も整理整頓されていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間は個々にあわせ、早い方や、ゆっくりと時間を取って食べられる方もあり、それぞれの一日の始まりから就寝まで、利用者のペースを大切にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接の老人ホームより調理済みの食材が届き職員と利用者が盛りつけ、配膳をして、利用者と職員が共に食事をしている。現在は週1回昼食のみ一緒に調理をし、たまにおやつ作りも行なっている。		五感の刺激や、利用者の得意なことの役割の1つとなる等、調理等をホームで共に行うことの意義を、今一度検討し、食事に関わる一連のことが楽しめる雰囲気となるよう取り組みが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は特に決めておらず、利用者の希望で入浴している。入浴するのが嫌な場合は時間をあけて声を掛け、また、清拭をしたり翌日に振り替えて入浴するなど、利用者の気持ちを大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方にあった役割や楽しみを職員が知り、その時その時に声を掛けて、利用者の力を引き出している。重度の方にも笑顔という力があり、他の利用者の支えになっていると職員が支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は少し離れたコープに行くが、帰るときには疲れていると車で帰ることもある。散歩は、公園や近所周りを歩くこともあり、車椅子利用の方も出かけている。病院受診時に歩いていく方もありその人の希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は開いていて、何時でも出入りができる。今、利用者の方全員が落ち着き自分の家と感じ、利用者も職員に声を掛けて、「行ってきます」と出掛けており、しばらくすると帰ってこられる。利用者が外出していても、近隣の方が知らせてくれる等の地域の協力も徐々に得られている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>夜間を想定して防火訓練を消防署の指導のもと、年2回行っている。利用者の方も慣れてこられたのが落ち着いて共に行動するようになった。地域の協力は今のところ無いが、運営推進会議に次回提案していく予定である。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設特養より食事を運ぶので、管理栄養士が管理している。水分はおよそであるが職員が記録している。利用者の体調が悪くなったときは、チェック表をその時に作り、職員全員が把握している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間が少し狭いかなという感があるが、ガラス戸より見える自然の木々がゆったりとした雰囲気を出し、整理整頓も利用者に合わせている。カーテンで少し光を遮り、自然の風も入るよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その人らしく今まで使っていた物が置いてある。荷物の多い方や、自分の電話を置いている方、荷物は少ないが持ってきたものを使いこなしている利用者、それぞれに居心地良く過ごせるよう配慮されていた。</p>		

 は、重点項目。